**№62　テーマ『仕事と人生（人生三観）』前半**

**講話日2019年5月10日**

**みなさん、おはようございます。**

**ただいまご紹介いただきました芳村思風です。よろしくお願いします。まあいよいよ時代がですね、平成の時代が終わって、令和の時代ってことになって改元されました。それは令和の時代になって、今年はその令和元年、アサヒグローバルさんにご就職された新入社員の方々、心からおめでとうございます。県下では本当に名の知れた超一流企業ですのでね、大いに志を持って、希望を持って頑張っていただきたいと思います。**

**令和になったんですけども、みんなが望んでおるようなですね、本当にこの素晴らしい年になればいいんですけど、どうかなと思うことが非常に多いですよね。平成の時代っていうのは1989年から始まって、1989年が平成元年でした。その平成に入るまではですね、本当に日本はジャパンイズナンバーワンと言われるような、本当にうかれて有頂天になるような本当にすごい景気の良い時代だったんですよね。バブルと言われて、本当にもすごい勢いも良かったんですけど、平成元年に入るに及んでですね。急にこの大きな問題がどんどん出てきて、いわゆる激動の時代というふうに名実ともに入ったのは平成元年からなんですよね。**

**いろいろ振り返ってみると大きな自然災害や社会的な問題がいろいろ頭に浮かぶんですけどね。とにかくこの平成元年には中国で天安門事件という若者たちが共産主義の政府に反対して民主化を求めて大暴動を起こすということで軍隊によって鎮圧されましたけども。そういうところからですね、平成元年は始まりました。また株式市場でも平成元年に史上最高値38000円いくらという史上最高値をつけて、翌年平成2年から株価の大暴落が始まって、株価の大暴落だけじゃなくて地価の大暴落も始まって、本当にそれ以後失われた20年といわれる大変動・大激動、不況のの時代に突入するというそういう状態でした。自然災害でも東日本、東北の方ですね、大震災、大津波、原発問題がありましたし、またずっとこの平成の中では阪神淡路大震災も起こったし、熊本の震災も起こったし、全国各地で大きな震災が起こりました。それだけじゃなくて、オウム真理教のサリン事件、アメリカではツインタワービルの崩壊ということもありましたし。本当に数えあげればキリのないぐらい自然災害や世界を揺るがす大事件というものが、次々と発生したのが平成の時代であって、平成最後にあの有名なゴーン日産会長が逮捕されて、大きな問題に現在でもなっておるわけですけど。そういう大動乱の状況で平成が終わって、そして令和が始まったわけであります。**

**平成の時代というのは、そういう大問題が起こったということだけではなくて、平成という時代が作り出した新しい問題というものもたくさんあります。離婚の激増、少子化、高齢者の孤独死の問題であるとか、独居老人の問題であるとか、家庭内における虐待の問題であるとか、お父さん、お母さんというのが子供に対して毒親と言われるようなそういう状態になっているとか、自殺者が3万人を超えたとか、平成になってからでてきた新しい問題がたくさん存在するわけであります。そういう意味では令和の時代というのは、平成の時代が作り出した様々な問題を引き受けて、それをどう解決していくか、それにどう対応していくかが望まれる、そういう時代になってくるんじゃないかと思うんですね。企業なんかでも数値の改ざんとかですね、あるいは検査ミスとか、いろいろ事実じゃないことを言われたり、官僚にしても民間会社の大きな会社でもいろ**

**いろ不祥事が起こりまして、国民のからの目から見たら、なんかもうたるみきっているじゃないかという、そんな感じの問題が、平成の後半には本当にどんどん出てきて、大きな銀行とか証券会社が潰れたのも平成の時代でしたしね。平成が作り出した問題を、これからどう我々が処理して行くか、どう乗り越えていくかが非常に大きな問題であります。**

**令和という言葉を考えると、この言葉もやっぱり解釈があるんでしょうけれども、だけども「令」という、この言葉を聞いた瞬間にピッと感じたことはですね。何かこうたるみきった人心、人の心をピリッと引き締めようという、そういう響きが令という時には感じられるかなと、そういうような気がしました。そういう意味では、令和の時代というのは、みんなが人心一新というか、気分を一新してですね。もっともっと仕事においても、いろんな面で気持ちを引き締めて、たるみのない、だらけてない、本当に気を引き締めた仕事の仕方、生き方をこれからしていかないと平成が作りだしたいろんな問題を乗り越えていくことができないんじゃないかなというのが心配されるわけであります。だけど、一応令和と決まったからにはですね。この令和の時代をより素晴らしい時代に導いていくような努力を我々は、これから傾けていかなければならないと思います。**

**今日は「仕事と人生」という名はそういうテーマでお話をさせていただくことになっているんですけど。仕事というのは、この実際のところ、会社に入って仕事をするってことは、1人で仕事をするんじゃなくて、組織の中で仕事をするとなると、そこで組織力ということが非常に重要な課題として出てくるわけであります。組織力って何なのかと言ったら、1人ではできないことでも2人ならできる。2人ではできないことも3人ならできる。3人でできないことも5人ならできる。5人ではできないことも10人ならできるじゃないかという。それが組織力という強さであります。このことをぜひ社員は心しながら、組織にいる以上は組織力という、みんなが集まって力を合わせて仕事をしていく相乗効果のすごさをみんなが感じながら、またそれを作り出しながら仕事をしていかなければならない。組織において仕事していく場合の心構えであります。**

**それでは組織というものを、この活力のあるものにするためにはですね。組織の中で対立をしたり、お互いに批判をしあったり、邪魔をしたり、そういうふうな行動は本当に心して控えなければならない。組織力というものを高めていこうと思ったら、みんなが教えあい、学び合い、協力し合い、助け合ってですね、そして人が集まることによって出てくる相乗効果というものを最大に高めていくような、そういう思いで組織においては仕事をしなければならないわけであります。**

**ぜひ、まずですね、初っ端に組織力とはなんなのかってことについて、もう一度考え直して頂いて、そして自分自身が組織の中でどういう生き方をし、どういう仕事の仕方をし、働いていったらいいのかということについてですね。組織力とは何なのか。組織力をつくりださなかったら組織で働いている意味がない。自分一人で仕事をするっていうんじゃなくて、組織で仕事をするとはどういうことなのか。またどういうことをする必要があるのかということを、是非考えてみてもらいたいというふうに思うわけであります。**

**対立もいろいろ起こる場合があるんですが、だけども対立って言うのは組織のガンであって、対**

**立が起これば組織力は急速に弱まってしまいます。対立は乗り越えてて、乗り越えることによって自分を成長させていって、さらに学び合い、教え合い、助け合い、協力しあって仕事をしていくという思いを強くしていく。そういうことがないと組織は弱体化しますし、また組織は成長することはありません。**

**でも組織の中では、一応この熟練者と未熟練者ということがあって、どこのリーダーとフォロワーという関係性が存在します。リーダーというのは、なんちゅうか本中華冷やし中華と申しましょうかね。リーダーというのは、リードするという意味で、リードするというのは、みんなの先を行ってですね、先頭に立つという。そういう役割というものがリーダにはあるわけですけど。もう一つリードするということは、後からくる者、下のものを引っ張っていって、教育して、指導していって、やがて自分を超える、リーダーを超える社員を作っていくことがリーダーの役割であります。リーダーが社員教育をして、ただ自分と同等のリーダーを作るだけでは会社は発展しません。会社を発展させようと思ったら、リーダーが己を超える、自分を超える、そういう力を持った存在に、部下を、フォロワーを成長させていくというふうな。それを心得て、リードする、引っ張っていく、ということをしていかないと組織は成長しないわけであります。そういう意味では、リーダーがリードするということの中には、二つの意味がある。**

**先頭に立って、率先垂範して、見本を示すという役割と、部下を育てる、部下を導いていく、そしてやがて自分を超えるリーダーを作っていくという役割が、リーダーには存在しているわけであります。一方、フォロワーという社員の方からするとですね。フォローするとうのはどういうことかというと「フォロー」というのは「着いていく」という、上の人の命令に反抗せずに、言うこと言う通りに着いていくというそういう意味もフォローという言葉にはあるんですけど。もう一つ、フォローということには、リーダーの欠けたるところを補ってフォローする。リーダーを助けてあげるというというフォローという役割が社員にはあるということなんですね。リーダーに恥をかかせて、ほくそ笑んでいるような社員は、もう社員としての、フォロワーとしての資格がないと。フォロワーの格がない。フォロワーというのは、決して自分の上司に恥をかかしてはならない。上司の足らざるところを責めるんじゃなくて、上司の悪口を言うんじゃなくて、上司の足らざるところをそっと補って、上司に失敗をさせないように、みんなで守っていく。そういうふうな心遣いというか、関わり方もフォロワーとしてしなければならない重要な課題であります。フォローという言葉には、黙って、従ってついていくというあり方と、それから上司を責めないで、上司の足らざるところを補うために俺はいるんだという、そういう自覚と、それからさらには、この上司を自分が納得できるような、自分が尊敬できるような上司に、上司を育てていくために、上司に関わるという。そういうあり方がフォロワーには原理的に求められるわけであります。**

**このリーダーとフォロワーがガッチリと噛み合った関係性を、会社においては、組織においてはパートナーシップというんですね。上司と部下がガッチリと協力しあって、そして仕事をしていく。パートナーシップというふうに、お互いに感謝しあい、お互いに助け合って、組織としての力を最大限に引き出していくという。そういう関係性をパートナーシップというわけであります。そういう自分の置かれた役割の意味というものを、まずははっきりと掴んで、組織の中で役**

**割を果たしながら、会社を発展させることに貢献してもらいたいと思います。**

**だいたい就職っていうのは、ただ雇ってもらって、お金をもらえるから就職ということでなく、就職するということは、自分が就職した会社の発展に自分は貢献します、そのために働きます。という約束が就職というものであって、就職はただ職につくということじゃない。どの会社に就職するのかという選択が働きますから、その決断の中には自分が就職しようと決めた会社を、とにかく自分の力で発展させるぞという、会社の発展のために私は自分の力を最大限出して協力しますという、その宣言、誓いが就職ということの意味であります。そういう意味でも、とにかく全社員がお互いに心を一つにして、いかにすれば会社をもっと発展させることができるだろうか、常々考えていかないと組織力というものは、なかなか成長するものではありません。**

**そういう会社での仕事の仕方というものを具体的に実現していくためには、社会に出て仕事をしていくために必要な三つの課題というものがあるんですね。これは難しくいうと「人生三観」といって、レジュメにも書いてありますから見て頂きたいんですけど。「仕事と人生」というテーマでお話するんですけど、それはちょっと難しく言うと「人生三観」というそういう言葉で表現することができるわけです。人生を素晴らしいものにして生きていくためには「人生三観」。このことについてあらかじめ、わかっておく必要がある。**

**「人生三観」というのがどういうことかというと、まずは「仕事とは何なのか」ということについて、だいたい自分でわかってるということ。二番目は「社会とは何なのか」ということについて、自分でちゃんと理解している。それからもう一つは「人間とは何なのか」ということについて、ある程度の理解を持っている。**

**この「仕事とは何か」「社会とは何か」「人間とは何か」これがこの仕事をしながら社会の中で人間を生きるということにおいて、基本的に求められる「人生三観」という課題であります。**

**こういう基本的な物事に対する理解、認識というものがないと、なんとなく仕事しちゃって、なんとなく生きちゃって、適当にやっていたら何とかなるんじゃないのという非常に心もとない、貴方まかせの、目標のない人生になってしまうんですね。だけどある程度の理解というか知識を持ってると、やっぱりそのことを意識しながらそれを目標にいろんなことをしますから、必ずそれなりの成長というものがそこから出てくるわけであります。**

**目的・目標・理想というものがないと、またそれがはっきりとしてないとなかなか人間はそう簡単に成長するということはありません。成長するためには目標が大事であります。目標がないとどう生きたらいいかわからないし、どう仕事をしたらいいかわからないし、結果として「まあどうでもいいじゃん」となってしまって、生き方が非常にグラつくというか、筋金の通らない、柱ができない、そういう状態になってしまいやすいです。**

**そういうことでですね。今日は「人生三観」というこの問題についてお話させていただきたいと**

**思っております。まず職業とは何なのか？職業観ですね。この仕事をしていく上で、仕事っていうのは一体どういう意味を持ってるのか。仕事をするということはどういうことなのかということについての基本的な心構えというふうに言うことができるものでありますけど。ここに挙げたように、一応その内容として4つずつの内容にまとめてあります。**

**第1番目は、職業とは「人を幸せにすることによって、自分も幸せになる活動である」というふうに考えていなければならないということです。我々がしてる仕事っていうのは、全て人の役に立って、人に喜んでもらうということが、仕事をする場合の基本的な目標であります。人に喜んでもらえるような働き方、仕事の仕方というものをして、人に喜んでもらえると相手は満足してくれて、そしてその仕事に対する報酬、お金をくれるということになって。人に喜んでもらうとやっぱり、自分がやったことで喜んでもらうとやりがいがあって、自分も嬉しくなって、さらにはお金をもらえるので自分も豊かになって幸せになれるという循環が社会と仕事の関係性であります。大事なことはまず自分が幸せになろうと思ったら、社会は生きていけないということです。社会の中で生きるためには、まず人を幸せにする力を作ってかないと自分は幸せになれないということを基本的によく知っていないといけません。**

**自分が幸せになろうと思ったら、必ず人を犠牲にします。自分は幸せになろうと思ったら、人を踏み台にして自分が幸せになるという、そういう人の生き方をしてしまうことになるんです、結果として。それは社会という、お互いが役に立ち会う関係で作られているこの社会においては、絶対に考えてはならない、してはならない大きな間違いであります。まずは人を幸せにする。そのことによって自分も幸せになれる。この活動のことを「職業」と言うのであります。人を幸せにすることが喜びである、嬉しいという気持ちがないと、職業において成功することはできません。人を幸せにしたら、必ず自分も幸せになれる。職業というものは、人を幸せにすることによって自分も幸せになれる活動のことを「職業」と言うのである、そういう認識を基本的に持っておる必要があります。**

**それから2番目ですけども。職業の真の目的は、お金ではなく人の役に立つ人間になることである。現実的には、本音では「やっぱり仕事はお金やわな」と思っている人が多いと思うんですけど。実際問題、お金を獲得することを目的に仕事をするという職業観を持つと、大体人間ってのは利己的になって、自分本位になって、頭の使い方もいわゆる悪賢いという人間になってしまうんですよ。頭はいいんだけど、自分を中心にいろんなことを考えてしまって、とにかくは自分が金が儲かるように、自分が得するように、自分が豊かになるようにというですね。これをまず最初に考えて生きてると、どうしても人を犠牲にする、人のことを考えるよりは自分を優先させるということになってしまうのは、金を目的とした生き方、金を目的とした仕事の仕方の結末であります。お金を目的に仕事をすれば、必ず人間は悪賢い人間になってしまう。**

**政治なんかではですね。よく昔から政治の世界は権謀術数の世界である。すなわちいろいろ策略を講じてですね、敵を罠に陥れる。そして自分が勝つ、自分が有利なほうに物事を導いていく。それを政治においては権謀術数と言って、そういう策を練って、そして自分が儲かるようにと、**

**そういうふうなことにするのが、政治であり外交であるというふうにこれまでは言われてきました。**

**これは単に政治だけじゃなくて、経済界においてもやっぱり競争はあってですね。そしてお互いに同業他社とのライバル関係で、いろいろ悪巧みというものがあって、それに引っかからないように十分に注意して、経営はやっていかないと、ついついお人好しになれば落とし穴に落ちるという。そういう相手の思うツボにはまると言う、そういう状態になってしまうのが、この現実のシャバ世界の、企業社会の恐ろしさであります。**

**それはやはり、みんなお金というものを目的にしてるからですね。自分の会社が儲けようと思ったら、他者を蹴落とさなきゃならないという。また他の人が失敗するとああ良かったと思って喜んじゃったりなんかしちゃったりなんかしてね。相手の成功を喜べない、相手の失敗をついつい喜んでしまう、そういう人間性ができあがってしまうことになります。仕事の真の目的は、人の役に立つ人間になることであるというふうに考えないと、本当の人生最終的な幸せ、成功っていうのは手に入りません。人を蹴落として、人を不幸にして掴んだ幸せは、本当に三日天下というか、あっという間に他人の恨みをかってですね。自分が引きずり下ろされるという、そういう結果が必ず待っております。悪心を持てば決して成功は長続きしません。**

**仕事というものはですね。やはりこの社会の中で生きていく以上、人の役に立たないとその仕事は継続することができない。そういう意味で仕事をする目的は、人の役に立つ人間に自分を成長させる事であるんだ。そのために我々は仕事を通して知識を増やしていき、技術・技量を磨いて、そしてこの成長していって、少しでも人の役に立つというこの努力というものが、お客さんを満足させ、また同僚にも評価されて、そしてだんだんと幸せな人生に近づいていくということになっていくわけであります。**

**簡単な言葉ですけど、人の役に立つ人間になるということをですね、心がけなければならないし、また人に必要とされる人間になるということを心がけなければならない。「お前なんかいらんわ」ということを言われたら、もう上がったりなわけですから、「お前だけはどうしても必要や」と言われるような、そういう人に必要とされる人間になる。そのために、人の役に立つ人間になる。そのことが仕事にとっての目的であって、仕事というものをしないと、どうしたら本当に人が喜んでくれるのか、仕事をして初めてこうすれば人は喜んでくれるんだということが具体的に分かってくるわけですよね。仕事をしないで人に喜んでもらえる、人の役に立つ人間になろうとも、それは観念であって架空の空想であって、決して現実的な仕事の力、実力にはなっていきません。仕事をしながら、お客さんに喜んでもらった、同僚に喜んでもらったという結果を出すことによって、それがいわゆる実力ということになっていくわけであります。そういう意味で仕事をしないと本当に人の役に立つ人間になるという実力は作れないということを知りながら、仕事をすることが大切ではないかというふうに思われるわけであります。**

**3番目はですね。職業とはその仕事に従事する人間を、人に喜んでもらえるような仕事の仕方が**

**できる能力と人間性を持った本物の人間に成長をさせる働きをする。職業ってのは基本的に、人に喜んでもらえないような仕事の仕方をしていたのでは、そのレベルでは会社が倒産します。「あいつには頼まん」ということになって。だから基本的にやっぱり仕事というものは、職業ってのはその仕事に従事する人間を、人に喜んでもらえるような仕事の仕方ができる能力と人間性を持った本物の人間に成長させるという働きを、基本的に職業というものがしてるんだということをわかって、仕事をするということが非常に大切であります。**

**人間として本物っていうのはどういうことなのか。人間として本物っていうのは、ただ頭でわかってるって言うだけじゃなくってですね。わかったことはちゃんと身に付いてる、体得されてる、体でわかってるっていう状態の事を、本物の人間というんですね。ただ頭でわかってる、観念でわかってるだけじゃあ、それはまだ身に付いていない偽物の人間だ。本物っていうのは、本当にもう体でわかってる、体に染み付いてる、体得してる。その状態を本物といういうわけですね。仕事というものは、そういう身についた実力というものを持った本物の人間を作るという働きをしております。長年その仕事やってくればですね、必然的に長年その仕事をしていなかったら、身につかない知識や技術・技量または人格っていうものを、一人でに獲得していくことになるわけであります。**

**歳を積み重ねないとなかなか手に入らない、そういうものはですね。長年仕事をしていると必ず自分のものになってきます。だんだんだんだん。だんだんだんだんだんだん畑とでもいいましょうか。だんだんだんだん仕事をしながら、本物の人間に近づいていくっていうことになっているわけですよね。長年仕事をしておれば、自然にそういう実力というものが身について、体得されて。すごいという力を身に付けることになっていくんですけども、それもやっぱり無自覚でただただ長年やっていれば、本物になるかというとそういうわけでもない。それなりにそうだと思って長年やっておれば、どんどんいろんなものが身について、体得されて、実力といわれるものがだんだん自分の中に積み重ねられていくんだという意識を持ちながら仕事をしているということになると、より効率よく実力ってものが蓄えられるし、自分でも実力というものがついてきたことを感じますし、自分でも成長しながら自分が仕事をしてるって事がよくわかるようになってくるんですけど。**

**無自覚になんとなく仕事をしてると、何十年仕事をしておってもですね、なんか自信がない、何か頼りない、なんかもう一つピリッとしないという。そういうふうないい加減な状態で年数だけが経過するということになってしまうこともですね、なきにしもあらずであります。そういう意味では、この仕事をするってことがどういうふうに自分が成長していくことなのかってことを知りながら、それをしてるって事は非常に大事なことだというふうに考えなければなりません。**

**特に仕事を通して獲得するものは、技量だけではない、能力だけではない、人間性の成長ってものもですね。仕事を通して獲得していかなければならないものであります。仕事をしていれば、人間関係の問題が様々に出てきますし、そういうことの中で、いろいろ人間関係の問題を乗り越えていくということをしていくと、だんだんだんだんこの人間性というものが成長していって、器の大きい、度量の大きい、包容力のある、そういう人間性豊かな状態に成長していくものであ**

**ります。そういう意味では、能力だけじゃなくて人間性を成長させるためにも、組織という、たくさんのいろんな性格やいろんな考え方の人がいる世界で、自分を成長させていくということの意味っていうものを、十分に我々は理解して、いろんな人がいるから結果としてその人たちと一緒に仕事していくことによって、自分の人間性の豊かさが作られるんだ。自分の人間性の幅ができるんだ。そういう自覚でいろんな人間関係の問題を処理していくというわけですね。そうすると必ず素晴らしい人格に、自分自身が成長していけるっていう結果に結びついていくわけであります。**

**この人に喜んでもらえるような仕事の仕方って書いてあるわけですよ。人に喜んでもらえるような仕事の仕方っていうのは、単にお客さんに喜んでもらったらいいってだけの話じゃないんです。それだけでは50%です。プロとして仕事をしていくということは、一緒に仕事をしている仲間にもですね、喜んでもらい、感謝してもらえるような仕事の仕方というものを、そういうことによって初めて組織人として、組織で仕事をしてる人間として、プロというふうにいわれる状態に成長できると。お客さんに喜んでもらったらいい、あるいは顧客第一主義だ、とそういう意識では、本当の仕事っていうのはできません。一緒に仕事をしている仲間にも喜んでもらい、感謝してもらえるような仕事の仕方ができる能力と人間性を養おうと思わないと、本当に組織でプロとして働いていく本物の人間にはならないというわけであります。**

**人間が本物の人間になるって事はですね、どういうことなのかってことなんですけど。人間が、本物の人間になるための条件というものが2つあります。それはどういうことなのかというと、人間が人間として本物というふうに言われるようになるためには、人間の、人間というものの本質と実態というものに命が触れる体験を持たなければならないし、また社会的存在と言われますけど、社会的存在として本物になるためには社会というものの本質と社会の実態に触れるということが、欠くことのできない重要な条件です。**

**人間の本質と実態に触れるということがどういうことなのかというと。人間ていうものが恐ろしいものなのか、どんなに醜いもんなのか、どんなに怖いもんなのか、どんなに素晴らしいのか、この人間の本当の恐ろしさと本当の醜さと本当の素晴らしさに、命を触れる体験を持って、はじめて人間ってものの実体を掴んだと言えるんですね。その時人間は人間として本物になります。また社会においてもですね、社会の恐ろしさ、社会の怖さ、社会の醜さ、社会の素晴らしさ。そういうものを肌で感じる体験を積み重ねていって、はじめて社会とは何なのかを本当にわかったという本物の人間になれるんですね。仕事するということは、実際その人間と社会の本当の恐ろしさと醜さと素晴らしさに命が触れるって体験をさせてくれる場が職業なんですよ。仕事をして、はじめて社会ってこんなに恐ろしいもんだったのか、社会ってこんなに醜いものだったのか、社会ってこんなに素晴らしいのか。職業というのを持たないと、切実にですね、そういう体験を獲得することができません。しかも職業というものをただただいい加減にやっておったんではだめです。職業というものを、本当に真剣ですね、真剣に職業に取り組むと、はじめて社会の極限状態、人間の追い詰められた曲極限状態、そういうものに出会うことができて、そこから本当に社会というのは怖いな、気をつけないかんなということが分かってきますしね。**

**本物の人間になるためには、社会と人間の本質と実態に触れるということが欠くことのできない**

**重要な要素です。**

**綺麗事では社会は生きていけません。本当に社会がわかり、本当に人間がわかるためにはね、社会の恐ろしさ醜さ怖さ、人間の恐ろしさ醜さ怖さというものも、ちゃんと体験しないと自分自身を人間として本物というふうにいうことができる状態に成長させることはできないわけであります。そういう体験を持って初めて、そういうことを分かって、じゃあ人間とどう付き合うかや社会の中でどう生きていこうか、組織の中でどう仕事しようかということがですね、ちゃんとこの現実的に実践で具体的に判断できる人間になります。そういう意味で職業っていうものを持たないと、人間は人間として本物というふうにいわれるようなものにはならない。だから仕事をするってことは大事なんだ。しかも仕事の目的は金ではない。仕事をすることは、俺を本物の人間に鍛え上げるためだという、そういう思いで仕事をしておれば、必ず金は後からついてきます。嫌と言っても金は入ってきます。**

**次は4番目ですね。最高の職業理念は、お客様にも仲間にも最高の満足を与え、最大の信頼を得るために努力しようという精神である。**

**あらゆる仕事ってものは、やはりこのお客さんやいろんな人に最高の満足を与えて、そしていろんな人から最大の信頼を獲得するということが、この職業というものの活動の究極の目的、理想であります。みんな何のため仕事してるのかといったら、最高の満足を与え最大の信頼を獲得する、それしか職業ってものの理念目標はありません。**

**これもお客さんだけじゃなくて、一緒に仕事をしている仲間にもね、満足してもらって仲間にも信頼してもらえる。そういう自分を作っていく。そのためには仕事という実践がなかったら、本当に満足させる力も、本当に人から信頼されるという力もですね、本当には自分のものにすることはできないわけであります。**

**しかもプロというのは、お客さんから金をもらって仕事をするのがプロで、金をもらわなければアマチュアですから、プロとして仕事をするということはですね。お金を取って仕事をするわけです。それだけの仕事のレベルというか価値・段階は必要なんですよね。だからやっぱりプロというのは、堂々と金を取ろうと思ったら、やっぱプロってのは「さすがプロですね」と客に言わせないといけない。「さすがプロですね」と客に言わせて、初めて堂々と金が取れるし、また金を出すお客さんも、惜しみなくというか快くですね、金を出してくれる。さすがと言わせてはじめてプロだ。そのさすがってことの内容が、やはり最高の満足を与え、最大の信頼を得るという仕事の仕方にあるわけですね。さすがと言わせないとプロじゃない。よく世間ではですね、プロというのは客の期待を超えるもんだということも言われます。客の期待を超えてこそ、その仕事は感動を呼ぶ。さすがと言ってもらえる。そういう快くお金を払ってもらえる、あれだけの仕事をしてくれたんだ、これぐらいの金は当たり前やろと思って、快くお金を出してくれる。そういう仕事をやはり我々は目指していかないといけないと思います。**

**さすがと言わせないような仕事の仕方で、金を取ろうなんていうのはおこがましい話やと、本人**

**が思ってないといけない。どうしても仕事の最終の仕上げにおいてはですね、やっぱりさすがと言わせてみようというね、そういう思いが大事じゃないかなという風に思いますね。この職業観・仕事とは一体どういうものなのかいうことについてはですね。一応これぐらいのことは最低限度、頭において仕事をしてしていただきたいと思うわけであります。**

**次はこの社会観・社会とは何かっていうね、話に入ります。やっぱり職業は、社会の中でお互いに助け合うという構造で仕事というものは成り立っているわけですね。社会ってのは何なのか。それはお互いに役に立ち会うっていう人間関係のことを社会というのであります。役に立ち合う、役に立ち合おうといういう気持ちがないということは、その人は社会のあり方を破壊してる、分かっていないということになるわけです。社会っていうのは、みんながお互いに役に立ち合おうという気持ちが、社会っていうものを作り、社会の秩序というものを作っておりますので、社会の本質は役に立ち合うという心にあるというふうに考えないといけません。**

**そういう意味で、人の役に立つ仕事である職業というものを持って、初めて人は社会人と言われるようになるんですね。だから二十歳を超えて、大人になっても仕事がなければ、社会人とは言われません。**

**まず社会の中で仕事をしていくためには、社会の本質である社会性とは何かっていうことをちゃんと理解しておることが大事であります。社会性とは何か。最近、社会性って言葉があまり使われなくなりました。学校教育でも社員教育でも、マスコミの文章の中でも、あまり社会性があるとかないとかということが、言われなくなってきたんですね。だけど社会性と何かってことを、ちゃんと考えてきますと。社会性って一体なんなのか。社会にはいろんな考え方の人がいる。それでいいんですよね。みんな同じ考え方にならなきゃいかんというのは、これは画一的社会、個性がない社会で、みんな縛られて窮屈な状態になるわけですから。だけど人にはみんな個性がありますからね。そういう意味では、色んな考え方があるのが社会であります。いろんな性格の人がいるのが社会であります。いろんな子の価値観の人がいるのが社会であります。いろんな宗教の人がいるのが社会であります。そして企業というのは社会の縮図というように言われますから、会社の中にはいろんな人がいなければならないんですよ。でないといろんな人を対象にした職業ってものは、本当には成り立ちません。 会社は社会の縮図である。社会ってのはいろんな考え方の人がいて、いろんな性格の人がいて、いろんな価値観の人がいて、いろんな立場の人がいて、いろんな宗教の人がいる。それが社会というものの現実であります。社会の中で生きるって事は、自分とは違う考え方の人と共に生きることを社会を生きると言います。社会性を持って生きるといいます。自分と違う価値観や自分と違う考え方や、自分と違う宗教や自分と違う性格の人と仲良く生きることができる力を社会性というのであります。その反対、社会性がないというのは、どういう状態なのかといったら、社会性がないっていう人は、性格が違ったら合わんと言ってですね、一緒にやっていけないんですよね。考え方が違ったら合わんといって、考え方の違う人間を排除する。価値観が一緒じゃないと仕事なんかできるはずないやないか。これは社会性がない人なんですね。宗教が違ったら戦争や、社会性がないんですよ。だけど今世界をみておったら宗教戦争やってますでしょ。民族戦争もやってるでしょ。会社なんかでは、価値観の違う人間を排除して、価値観の統一を図ろうってそういう間違ったことをしてる。ちょっとした感じ**

**方が違うんで、夫婦はもう離婚やといって、一緒にやっていけへんと言って別れてしまう。子どもが言うことを聞かんと親がムカつく。これが今の現状の社会の実態であります。**

**これは明らかに社会性とは何なのかってことを考えていないんですね、考えたことがない。しかも近代何百年間か、理性を原理にして生きてきて、理性的な人間になることを最高の目標にしてきた。頭がいいということが一番素晴らしいんだ。人間性なんてどうでもいい、頭さえ良かったら万々歳や。そうそう教育をしたきたんです。**

**お父さん、お母さんでも、健康に問題があっても、頭さえ良かったら、うちの子はすごいって自慢してるんですよね。**

**近代人は人間的な人間になることを忘れて、理性的な人間になることを最高の目標にして、子どもを育て、教育が行われてきました。一般社会においても、やっぱりまだまだ頭がいいということがですね、最高に評価される。まだまだそういう時代です。**

**理性っていうのはですね。真理はひとつと考えますから、理性的になれば考え方の違う人と対立します。考え方が違ったら、一緒にやってきません。あと理性というのは矛盾を排除しますから、自分と違った考え方の人間や自分と違った価値観の人間を避けるっていうかね、この排除しようとします。また理性は画一性を追求して、みんなに共通するものを作ろうとするのが理性ですからね。それを画一性といますけど。だから個性は無視されて、皆と同じことをしなきゃならないっていうことが、求められるのは、理性というもののありかたであります。理性的になれば確実に、考え方の人とは一緒にやっていけませんし、価値観が違ったら一緒に仕事ができませんし、宗教は違ったの殺し合いです。なれど社会が、この社会の中で住んでる人間に求めてるものは社会性なんです。社会性がなかったら、社会は崩壊する、社会の秩序は崩壊するんです。その社会性とはなんなのか？といったら、性格が違っても一緒にやっていけるよねというのが社会性があるというんですね。考え方や価値感が違っても一緒にやっていく努力をする人を社会性があるというんですよ。**

**今はその逆で、宗教で殺し合い、考え方の違いや感じ方の違いで離婚、価値観が違ったらもうその人とは一緒に仕事できない、排除する。それが現実ですからね。ということは現代人は社会性がないんですよ。民主主義っていったらいくらにもいいように聞こえてますけど、民主主義国家ってのはいろんな考え方があってね、国の内部でみんな分裂してるんですよ。内紛状態にあって、内乱状態になるのが民主主義社会の現状であります。**

**民主社会は理性的国家です。合理主義で貫かれております。考え方の違う人と一緒にやっていこうという愛がない。宗教の違う人とも何とかともにやっていこうという愛がない。最初から敵なんですよ。民主社会には社会性がありません。だけど本当に我々が安心してですね、社会を生きていこうと思ったら、どうしても社会が求める社会性っていうのを人間は受け入れる必要があります。なんで我々は考え方の違う人、価値観が違う人とも一緒に生きていかなきゃならないのか。それは我々の命の奥底から湧いてくる欲求というのはですね、できることなら、みんなと仲良くしたいというのが命というものの欲求なんですね。できることなら本当は対立や喧嘩なんかするのではなくて、みんなと仲良くしていきたいんだというのは命の欲求なんです。なんで命の**

**根元から、できることだったらみんなと仲良くしたいんだけどなあ、という気持ちがなんで湧いてくるのか。それは命を作ったのは人間自身じゃない。**

**命を作ったのは母なる宇宙です。宇宙によって命が造られた。命を作った母なればですね、自分の産んだ子どもたちが、みんな仲良く信じ合って生きてきてってもらいたいと願うはずなんだ。自分の産んだ子どもたちが、殺し合ったり憎しみあったり対立したり恨みあったりしてたらお母さん悲しい。だから我々の命から湧いてくる「できることならみんなと仲良くしたいんだけどなあ」というこの気持ちはですね、実は母なる宇宙が造った人間という命に、母なる宇宙が、お母さんが託した願いであり、祈りであり、思いなんですね。これは母の思いです。人間と命に、人間と命を作って、人間と命に母が託した思いです。だから人間が本当に人間らしく生きようと思ったら、母が人間に託した、母の思いを実現することを意識しながら生きるって事が、基本的に人間らしく生きるという生き方であります。人間らしく生きようと思ったら、我々は常に、考え方の違う人とどうしたら仲良くやっていけるかな、価値観の違う人とどうしたら一緒に仕事ができるかな、宗教が違ってもどうしたら一緒にやっていけるかな。そのことを考えるって事が、母の期待に応えようとして生きている子どもの姿であります。それが人間らしく生きるという原点なんですね。**

**だから我々は対立があっても、それを乗り越えていく努力をせんとバーナードね。対立を乗り越える努力をしなければならない、ということをギャグでセントバーナードちゅうんですけどね。**

**どうしたら対立を乗り越えていけるだろうなってことを、考える必要がある。**

**でも現実にはですね。皆さん方の中でも、いろいろ今家庭の問題もあり、職場の問題もあり、人間関係で悩んでる方はたくさんいらっしゃいます。なかなかか社会性はあるというふうに言える人格の人は今ものすごく少ないです。もうちょっと対立の状態になって「もういいか」もう関わらんとこって思って放置する、そういう状態になってしまってる人も多い。そうやけど命っていうのはみんなと仲良く生きたいんですよね。命を保とうと思ったらやっぱりみんなと仲良く生きることが、一番安全な命の環境なんですよね。基本的には生きづらい現実よりも生きやすい現実を望みますから、できることならみんなとどうしたら仲良くやってるかなーってことを思うのが、考えるのが命の欲求であります。本当に我々は社会性というものを持った人間に成長していくためには、どういう努力セントバーナードであるか、といったらですね。このなんで一体、この考え方の違いが生じるのがってことを、まずもって考えてみる必要がある。**

**考え方の違いってのは生まれつきじゃないんですよ。生まれながらに考え方が違うなんてむかついて生まれる子どもはいませんからね。オギャーと生まれた時は、みんな天真爛漫、純粋な清らかな、一点の曇りもないそういう信条をもって生まれてくる。だけども考え方の違いは後天的に作られるもんです。価値観の違いは。じゃあ、なんで一体生まれてから後に、考え方や価値観やいろんな違いが出てくるのか。その原因は5つあるんですね。どういう原因かといったら、体験が違ったら考え方が違います。また経験が違ったら考え方が違います。持ってる知識・情報が違ったら判断は違います。物事の解釈の仕方が違ったら考え方は違ってきます。そして人生の様々な出会いが違うと考え方も違ってきます。では人生の出会いっていうのはなんなのかというと。どんな事件と出会ったか。どんな犯罪と出会ったか。どんな災害と出会ったか。どんな事故と出**

**会ったか。どんな本と出会ったか。どういう人と出会ったか。出会いの違いによっても人間の考え方はグラグラ変わっていくもんです。**

**とにかく考え方が違う、価値感が違うということになってしまう原因は5つしかない。体験の違い、経験の違い、知識・情報の違い、そして物事の解釈の仕方が違う。それから５つ目は人生の様々な出会いの違いですね。これしか考え方が違ってくる原因はありません。この考え方が違うということは、自分にないものを相手が持ってるってことなんですね。同じ体験の人だったら対立はしません。同じ知識を持っていたら一緒や一緒やといって喜んでおります。結局、対立は違いから生じる。ということは、 今、自分の目の前に居る人間と、自分は対立してるってことは、相手が自分にない何かを持ってるんだってことなんですよね。**

**同じものを持っとったら対立はしません。持ってるものが違うから対立するんです。同じ考え方の人と付き合っておったら楽しいし、愉快で、気楽でいいんですけど、だけど同じ考え方の人とどんだけ付き合っても成長はしません。成長しようと思ったら自分にないものを持ってる人と付き合って、自分にないもの相手から学ぼうということ以外に、自分を成長させる方法はありません。そういうことを考えるならば、今自分の目の前にいる敵というのは、実は自分にない何かを持ってるんだ、そして自分が成長するためには自分にないものを相手から学ぶ必要がある。その事を考えたらですね、今自分の目の前にある敵っていうのは自分が成長するために学び取らなければならない何かを持ってる人なんだという、そういう理解の仕方ができることになります。**

**敵は敵やない。俺が成長するために学び取らなければならない何かを相手は持ってるんだ。そのことが分かってきたら、敵と対峙しながらも「一体あいつは俺にない何を持ってるんだろう。自分と違う何を持っているから俺と考え方が違うんだろう。一体何を持ってるんだろう。俺は知りたい！」と言うね、そういう認識を持って相手と対峙するってことができるようになっていく。また「俺は成長するために相手から何を学んだら俺は成長できるんだろう。俺は人間として成長するため相手から何を学ぶ必要があるんだろう、何を学んだらいいんだろう、俺は知りたい！」という認識をもって相手と関われば、もう相手を見る目が違う。嫌なやつやなという敵対的な目から、何かあいつから俺は学ばなければならないと俺は成長できないやなという目に変わるんですね。この目の色の変化、相手を見る目の色の変化がですね、人間環境を激変させて、そして深刻な対立というものを乗り越えさせる力になるんです。人間関係は目で決まる。どういう目で人を見るかによって、人間関係は完全に決まるんだ。どんなにいいこと言ってても目が睨んどったら関係は良くならない。目つきで決まる。どんな問題でも目を成長させることでほとんど解決する。もっと目を鍛える必要がある。目を磨く必要がある。目を成長させる必要がある。目を成長させようと思ったら、目は心の窓だから、心を成長させなきゃならない。心を成長させるためには気づきが必要だ。あっ、そうなのかと気づきがないと、心が成長しない。気づくことによって心は成長し、心が成長すればその心は目に現れ出てくる。目が変わる、目の色が変わる。この目の色の変化に相手は感応して、自分に対する態度を変えてくれるんですよ。まず相手を見る目を変える、相手を見る目の色を変える。この力を我々は養わないと本当の素晴らしい人間関係をつくる力を持つことができません。**

**なんで考え方の違う人も一緒にやってく努力をする必要があるのか。なぜ価値観の違う人と一緒**

**に仕事をしていくための努力をする必要があるのか。それは人間の考えってのはですね、人間みんな不完全ですから、どんな人の考えも、全部完全じゃないんですよ。みんな不完全なんですよ。欠けたる所があるんですよ。足らんところがあるんですよ。だから自分と違う考え方が出てくるという構造に宇宙がなってるんですよ。宇宙というのは対存在と申しまして、全てプラスとマイナスが一対となって全てのものができているんですよ。宇宙ってのはプラスにはマイナスがあるでしょ。半分ずつなんですよ。陰には陽があるでしょ。表には裏があるでしょ。光には影がある。善には悪、美には醜、真には偽、男には女。動物に植物、全部だいたい半分ずつになる。なんで半分ずつになるのか、それはある一つのものでは限界がある。だから当然その限界を補うために、それと違うものが出てくるという、そういう現象の構造に宇宙がなってるんですよ。だから自分と違う考え方の人っていうのは、必ず出てくる。出てこなきゃおかしいのだ。なんで出てくるのかって言ったら、自分の考えに欠けたるところを補うために、自分と違う考え方がの人が出てくるという構造に、宇宙の摂理がなってるんです。いやっちゅっても出てくるんです。**

**俺がこうやっていったら、必ずいやそうやないんや、こうやないかと対立してくる人間が出てくるように宇宙が作ってるんですよ。一対なんですよ。考え方が違う、価値観が違うというのはお互いに相互補完の関係にある。お互いに欠けたるところを補い合うって関係で違うものが出てくるんですよ。**

**それを表面的に考えたら、嫌な奴や敵やってことになってしまうんだけど、その宇宙の根源から原理を解き明かしていったら、自分と違う考え方の人間ってのは自分にとって必要な人間なんです。自分が成長するためになければならない存在なんだ。自分の欠けたるところを教えてくれる存在なんだ。また自分の欠けたるところを補ってくれる存在なんだ。相互補完と関係にあるんだ。だから学びあって助けてもらわないかん。そういう気持ちがふつふつと湧いてくる。経営って仕事は多くの個性を統合してですね、率いていかなきゃないけない。いろんな方考え方、いろんな価値観の人がいる、いろんな性格の人が全部統合していかなきゃならないのがリーダの仕事だ。これから統合能力がものをいう。これまでは統一を図ってきたんです。統一っていうのは理性的に個性を無視して、理性的にみんなを一緒にしてしまおうというというのが統一なんですよ。統一しようとするから対立が起こるんですよ。統一は西洋的概念だ。西洋人の考え方だ。これからはアジアが燃える、アジアの時代だ。アジアの価値観は統合なんです。いろんな違うものを全部結びつけて、お互い相互補完の関係で協力させていこう。統合の時代に入ったんです。もう今世界を動かしている力は、統合であります。企業統合、人間の統合、いろんなものを結びつけていって、その相乗効果を引っ張り出していくという統合の時代に世界は入っております。もう統一なんていうことは古いし、統一ということ自体がもう対立の原因で間違ってる。**

**これから我々は組織人として、社会人としてこの立派に生きていこうと思ったら、いろんなことらのものを、相互間の関係で結びつけていくという統合能力を磨いて行くきゃない。もう統一は悪だ。確実に統合の時代に入った。このアジア的価値観なんですね。統合は。統一しようとおもったら必ず敵対して分裂する。無理だ統一は。異なるものを結びつけて、どれだけの相乗効果を引き出すことができるか。これがこれからのですね、人間的活動、企業社会の大きな課題だ。とにかくまずは、この仕事を持って初めて社会人となるわけで、社会人となったら社会から要求される社会性ってものを身につけていかなければ、社会人として役割というか社会人としての生き**

**方を自分のものにすることはできない。それ見てまずは社会性と何なのかということをちゃんと知って、考え方が違う人とも何とか共に助け合って、協力して合って、学び合って、教え合って生きていこうという気持ちがこれからの組織には大事なんだということを、ぜひ分かっておいてもらいたいと思います。**

**とにかく全てのものは、みんな相互補完の関係にある。自分の足らざるところを補うためにいろんなものが出てくるんだって。だから学んで、そして自分を成長させていくってことを考えなきゃならない。自分を変えるんじゃない。自分も学んで成長するんだ。人の考えに左右されたららいかん。人の考えを取り入れながら自分の考えを成長させていくんだ。そうすればぐらつかない。君と出会えてよかった。君と出会えて君からこの話を聞いて、僕はこんなに成長できました、ありがとう、と言える。違ったものと出会う体験があるだけ、人間の人間性は豊かになり、人間性の幅ができてですね。どんどんどんどんだんだんだんだんでっかい、大きな人間に我々は成長できる。自分の性格が嫌だからって変えようと思ったらいかん。変わるっていうことは自分を否定すること。自分を否定したらいかん。自分を肯定し続けながらいろんな人から学び続けて、自分を肯定しながら成長させ続ける努力が人生だ。成長すればいいんだ。変わらんでいい。変わる必要はない。変えようと思ったら間違いだ。**

**自分が変わるはずがない。俺は俺だ。成長すればいいんだ。成長するためには学ばなきゃならない。君と出会えてよかったと言わなきゃならない。君がいてくれて良かったと言わなきゃならない。これがまず社会性を作るですね、社会とは何なのかっていうのを考える第一番目の課題であります。ちょうど中間点11時になりましたので、ちょっと休憩を入れたいと思います。どうもありがとうございました。**